

施策番号	0101		
施策名	自然環境とくらしを気遣う環境の保全		
概要	優れた自然環境を後世に伝えていくため、自動車の排ガス対策等、自然環境、生活環境保全に向けた取組、環境問題に対する市民の理解と行動を広げる環境学習を推進する。		
担当局・部室	環境政策局・地球温暖化対策室	共管局・部室	
上位政策	1 環境		
施策に関する 主な分野別計画等	京都市環境基本計画2016～2025, 京都市自動車環境対策計画(2011～2020), 京都市地球温暖化対策計画〈2011-2020〉		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		平成 29年度	平成 30年度	令和元年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウエイト
1	エコカーの普及台数(台)	a	a	73,218	83,854	84,000	99.8%	a	1.00
2	子どもたちが実践したエコライフの実施向上率(%)	b	b	8.8	8.7	10	87.0%	b	1.00
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		a	a	客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		平成 29年度	平成 30年度	令和元年度回答						有効回答 者数	評価
				そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう 思わない	そう思わ ない			
1	京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかけがえのないものと実感している。	c	c	71	205	228	81	58	643	c	
				11.0%	31.9%	35.5%	12.6%	9.0%			
2	「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれている。	b	b	108	294	173	91	47	713	b	
				15.1%	41.2%	24.3%	12.8%	6.6%			
3	-	-	-							-	
4	-	-	-							-	
5	-	-	-							-	
		b	b	市民生活実感調査総合評価						b	

3 総合評価(客観指標総合評価＋市民生活実感調査総合評価)

A	施策の目的が十分に達成されている					平成30年度	A
	重み付け	☒ 客観指標	a	☐ 市民の実感	b		
(重み付けの理由) 環境の保全のためには、自動車の排ガス対策としてエコカーを選択する市民や事業者が増えることが重要である。また環境学習は、環境に優しい行動が根付くことを目的とした長期的な取組であり、その成果はすぐには市民に実感されにくいことから客観指標に重みを置く。						平成29年度	A
(原因分析) 客観指標総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。							
(原因分析) 市民生活実感調査総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。							

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		令和元年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		平成30年度 決算額	令和元年度 予算額		
1	公衆トイレ整備	0	12,456	—	環境政策局
2	こどもエコライフチャレンジ推進事業	24,569	24,792	良い	環境政策局
3	次世代自動車普及促進事業	8,559	9,377	かなり悪い	環境政策局
4	京都市低公害車普及促進事業	1,807	2,244	良い	環境政策局
5	京都市環境保全活動センター（京エコロジーセンター）	161,707	161,718	—	環境政策局
6	生物多様性保全推進事業	40,005	46,304	良い	環境政策局
7	ダイオキシン類対策	27,659	29,503	良い	環境政策局
8	大気汚染対策	197,104	231,589	普通	環境政策局
9	水質汚濁対策	107,260	118,951	普通	環境政策局
10	騒音・振動対策	63,402	55,778	良い	環境政策局
11	公害苦情処理及び公害防止事前相談	104,849	111,885	良い	環境政策局
12	京都環境保全公社への府市協調支援	690,543	515,543	かなり良い	環境政策局
13	大岩街道周辺地域の良好な環境づくりの推進	5,924	5,924	—	総合企画局
14	不良な生活環境を解消するための支援及び措置事業	62,679	66,381	かなり良い	保健福祉局
15	ペットの防災対策推進事業	22,687	21,492	良い	保健福祉局

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

・今後も市民や事業者には、カーシェアリングや公共交通機関の利用拡大などの普及啓発を行うとともに、電気自動車等の導入や充電設備の設置促進などにより、電気自動車や低公害・低燃費車等のエコカーへの転換を図っていく。

・環境学習については、身近な生活（食、消費、交通等）や京都の都市特性（山紫水明の豊かな自然環境、自然と共生してきた文化・こころ等）を活かした幅広い取組を促進することで、市民の環境保全に関する理解や意識の向上を図るとともに、環境保全に関する自主的な行動につなげる。

・以上のことにより、市民生活実感の更なる向上を図り、自然環境とくらしを気遣う環境の保全を推進する。

施策名	0101	自然環境とくらしを気遣う環境の保全				
指標名	エコカーの普及台数(台)					
担当課	地球温暖化対策室		連絡先	2 2 2 - 4 5 5 5		
1 指標の説明						
EV（電気自動車）、PHV（プラグインハイブリッド自動車）、HV（ハイブリッド自動車）及びCNG（圧縮天然ガス自動車）等の京都市内での普及台数						
2 指標の意味						
環境の保全のためにエコカーの選択、普及状況を示す指標						
3 算出方法・出典等						
算出方法：各種エコカーの台数を加算 出典：軽乗用車は(一社)全国軽自動車協会連合会及び本市区市税事務所納税室納税推進担当、それ以外は(一財)自動車検査登録情報協会の情報による						
4 数値						
	前回数値 平成28年度	最新数値 平成29年度	推移	目標値		
				数値	根拠	
数値	73,218	83,854	10,636台増	84,000	令和2年度の数値目標達成のために当年度達成すべき数値	
	全国順位	中長期目標			備考	
		数値	目標年次	達成度		
数値		12万	令和2年度	69.9%		
5 評価基準						
最新数値の目標値に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満						
6 基準説明						
当該指標については、社会・経済情勢などの影響により、EV・PHVの生産量等が不安定となる場合があり、不確定要素が比較的多いことから、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。						
7 評価結果						
	平成29	平成30	令和元			
	a	a	a			

指標名	こどもたちが実践したエコライフの実施向上率(%)				
担当課	地球温暖化対策室		連絡先	2 2 2 - 4 5 5 5	
1 指標の説明					
家庭部門における温室効果ガス排出量の削減に向け、市内の全ての市立小学校において実施することもエコライフチャレンジについて、参加者全ての家庭でのエコライフ取組成果の集計データを100点満点で数値化し、取組前と取組後の数値の差異（すなわち改善度）を示している。					
2 指標の意味					
各家庭でのこどもたちのエコライフの取組成果について、取組前の数値から10ポイント向上することを目標としている。					
3 算出方法・出典等					
算出方法：取組後実施度－取組前実施度 出典：エコライフチェック実施結果より					
4 数値					
	前回数値 平成29年度	最新数値 平成30年度	推移	目標値	
				数値	根拠
数値	8.8	8.7	0.1ポイント減	10	取組改善率が10ポイント向上する
	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値					
5 評価基準					
最新数値が a：10以上 b：7.5以上～10未満 c：5以上～7.5未満 d：0以上～5未満 e：0未満					
6 基準説明					
毎年、当該事業に参加するこどもたちが変わるため、単年度評価指標を設定。こどもたちのエコライフの取組が、取組前から10ポイント向上することを目指している。					
7 評価結果					
	平成29	平成30	令和元		
	b	b	b		